

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390300048		
法人名	社会福祉法人 鶯園		
事業所名	グループホーム 津山 (南館)		
所在地	岡山県津山市小田中138-1		
自己評価作成日	令和4年3月29日	評価結果市町村受理日	令和4年6月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと
所在地	広島県福山市平成台31-34
訪問調査日	令和4年3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年もコロナウイルス感染症で終わってしまいました 最初はテレビ等で耳にし 感染症になった方はとても悲惨な目にあっている かかったらどうしよう利用者様にうつしたらどうしよう クラスターになったら…(手洗い マスク 消毒 換気 密にならない)を頭に置きホールの配置がえ パーテーション設置 レクのやり方 入浴の仕方等ガラツとかえました 外出は全くできておりません また地域の行事参加もできておりませんが 毎月の行事はコロナ関係なく行ってきました 1年が一番大きな行事(敬老会)はご家族参加なし・ユニットごとで行うとても縮小された行事になっております コロナ感染症についての考え方も少しずつ変わってきているように思われます 新しい生活様式を取り入れ 怖がらず 基本をしっかり守り 楽しく暮らしていこうと考えております 現在 私達のホームは職員も利用者様もこの生活に自然と身体がなじんできたように思います 職員一人ひとりが色々な情報をキャッチし話し合いながら感染対策をし外出ができるように またご家族をお招き敬老会ができる事を目標に掲げ利用者様の笑顔が見られるよう努力していきたいと思っております

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所からは神社や山、畑などが見渡せ、庭のベンチで日光浴ができ、利用者は思い思いに自由に過ごしている。「安心安全、元気で楽しく、利用者も職員も笑顔で過ごせる思いやりのあるグループホーム」をスローガンに、家庭的な雰囲気の中で利用者が安心して暮らせるよう支援に努めている。職員は毎月の行事が楽しいものとなるよう、利用者と一緒にリビングの飾りつけを行ったり、おやつや行事食を一緒に作っている。(正月三が日・新年会・七草がゆ・節分・バレンタイン…と毎月楽しく美味しい食事が提供されている。)また、外食の雰囲気が感じられるよう、おうちレストランと称し、白いテーブルセンターで料理を提供するなど、視覚的にも楽しめるような工夫をしている。家族に対しては、毎月通信を発行し「日常生活の様子が写真でよくわかり、体調変化などあれば連絡も密にあり、安心している」と、家族からの信頼を得ている事業所である。(電話にて聞き取り・書面調査)

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	特定非営利活動法人 あしすと	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホールに掲げた理念の通り家庭的な雰囲気の中で安心して健康に暮らせるように、そしてご家族との良きパイプ役としての役割を果たせるように日頃のケアを行っています	ホールの皆が見えるところに、事業所理念を掲示し、共有している。自己評価を行う度に、自分自身の認識や思いを振り返り、再確認することで、今後のケアの実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年近くの小学校・中学校・高校との交流やボランティアの方の訪問、地域のお祭りへの参加など努めていましたが、コロナ感染症の為、交流ができませんでした	コロナ禍のため、地域住民や学生との交流やボランティアの訪問、お祭りへの参加など交流が困難であった。年2回の避難訓練時に地域の方の参加があり、コロナ禍以前には、利用者の避難活動を手伝ってくださるなど交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、避難訓練に地域の方に参加して頂き、利用者様とふれあい理解を深めていただくよう努めていました。福祉の勉強として北小学校6年生が認知症の訪問授業で体験されていましたが、コロナ禍の自粛のためできませんでした		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議では市役所、地域の方、ご家族様にご出席いただき、日頃の様子をDVDで伝え、課題について話し合っていました。コロナ禍で今年度は1回しか開催できませんでしたが、毎回資料とDVDを作成し見ていただけるようにしています	コロナ禍のため、会議の開催が困難であった。活動報告として写真をDVDにまとめ、テレビで見え、利用者の思いや状況・身体拘束等の適正化について報告し、課題について話し合い、サービス向上に活かしている。	コロナ禍にあるが、年6回の開催及び運営推進会議メンバーへ事業所内の現状報告を行うなど、意見やアドバイスがもらえるよう関係の継続を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ禍で運営会議の開催ができなかったため、例年のような情報交換はできませんでしたが、メールやウェブ研修などでの情報を頂き役に立ちました	これまで、運営会議で報告・相談していたが、コロナ禍のため、実地指導の時や必要時にメールや電話で事業所の実情を伝え、困難事例の相談など行い取り組んでいる。オンライン研修に参加し、情報収集と連携に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の表情や行動に常に気を配り、早めに対応するようにしています。不安や困惑に対して、安心できる声かけに努めています。ウェブ研修に参加しスタッフ会議で内容を共有したり、困難事例を参考に身体拘束をしないで危険回避できるよう職員全員で話し合い取り組んでいます	北館、南館の職員で、各ユニットで行った研修の報告や困難事例の対応について話し合っている。帰宅願望のある利用者に対して、表情を観察し、気持ちを理解し、一緒に散歩するなど寄り添い、気分転換に努めている。	定期的に勉強会など開催し、身体拘束をしないケアについて理解を深め、ケアの充実が図られることを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	認知症を正しく理解しケアに努めています。利用者一人ひとりの状況を把握し職員間で共有しストレスのない環境をめざしています。高齢者虐待防止ウェブ研修会に参加しスタッフ会議で研修報告するなど機会をもうけて対応しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前は成年後見制度を利用し後見人がおられる方が入所されていましたが、現在はおられません。今年度はマニュアルにて知識の向上、理解に努めるように研修しました		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書、重要事項説明書の内容を理解、納得していただけるよう説明し、同意していただいています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しています。意見箱に入れて下さる方はおられませんが、利用者やご家族との会話の中で要望を尋ね、聞いたことを職員同士で話し合い反映するようにしています	利用者からは日常生活の中で、家族からは来訪時やケアプランの更新時に、意見や要望を聴いている。家族が話しやすく信頼関係を築けるよう努めている。要望があれば、職員や法人本部で検討し、出来る限り運営に反映できるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	介護現場において出てくる課題や提案を随時話し合うようにしています。毎朝の申し送り時やスタッフ会議に於いて、意見、提案を聞き、話し合いの上、反映させています。	職員ノートや毎朝の申し送り時、毎月のスタッフ会議の中で意見を聴き、職員全員で課題を検討し改善に努めている。行事ごとには職員が中心になって行っており企画を提案・検討し反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の会議にて、各事業所の状況を把握し、又随時の報・連・相にて対応されています。グループホームでは、楽しい職場づくりに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本年度は各種研修をオンラインで受けていただいています。スタッフ会議で研修報告していただき内容を共有しています。施設内研修も毎月のスタッフ会議でマニュアルや動画にて行っています。職員、個々の力量を把握し、資質の向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍でできていませんが、できることを模索し、今後も資質の向上を目指します。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所面接時、生活状態、生活歴、困っていること等聞かせていただき、職員で情報を共有するようにしています。職員一人ひとりがご本人と向き合い信頼関係を築けるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	抱えている問題、困っていることを聞き、どのようにケアしていくことがご本人、ご家族にとって良いかをご家族とゆっくり話をしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様にとって一番良いと思われる方法を共に考え、情報提供しています。この方のニーズに合っていないと判断される場合は、系列の他施設を紹介しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人ひとりの尊厳を守り、生き生きと暮らせる環境作りに努め、利用者ができることを維持していけるよう日頃より声かけし、行事など楽しんでいただき笑顔がでるよう感謝の言葉を沿えています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族との関係が希薄にならないように、毎年行事に参加していただいたり、誕生会には一緒にお祝いするようにしていましたが、コロナ禍でご家族様を交えての行事はできていません。面会制限もありました。電話やウェブ面会など使用、窓越しで会っていたくなどし良きパイプ役になれるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年度はコロナウイルス感染症予防のため、できていません	入所時に本人・家族からこれまでの馴染みの関係を聞いて把握し、職員間で共有している。面会はスマホ、タブレットで行い、遠くの家族とも顔を見て会話できるよう配慮している。携帯電話を所持し家族と話せるよう操作の支援をしたり、孫からの話がきにいつも返事を書く利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が良い関係で過ごせるように支援しています。悪い雰囲気を感じたときは職員が間で取り持つようにしています。安心して過ごせるように配慮しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	次に入られた施設、病院に面会させていただいていましたが、コロナ禍でご本人にはお会いできていません。機会があればご家族にご様子を聞かせていただいています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	したい事、して欲しい事を普通に話ができるような関係でお聞きし、その人らしさを暮らしの中で発揮できるよう関わっていくようにしています。職員間でできることの情報を共有し達成感を感じれるよう支援しています。	利用者と職員が、対等の立場で話し信頼関係を築き何でも話せる関係で日々接している。会話の中で表出された思いなどを個人記録と職員ノートに書き、職員全員に伝えるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所面接時、生活状態、生活歴を把握するよう努め、ご家族の面会時に話の中で聞いた内容を職員全員で共有しケアに生かしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメント、カンファレンス、毎日の記録や、職員同士の情報交換で一人一人の状況の把握に努め支援しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、家族と話をし意向を確認し、スタッフ会議でアセスメント、モニタリング情報を共有しカンファレンス後、介護計画を作成しています。必要に応じてDrなどの専門家の意見も聞いています。	入所時の情報と本人・家族の意向をもとに介護計画を作成している。総合的な援助方針と、計画書の計画内容が詳細に記載されており、支援が明瞭である。介護経過が詳細に記載されており、モニタリングしやすい。6ヶ月ごとに見直し、状態変化があればその都度柔軟に対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子の記録と、バイタル、食事量、レク参加状況、入浴等の記録とプランに対しての実績、職員間のノートを活用し、介護計画の見直しや日々のケアに生かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとり違った能力の方がみんな笑顔で毎日過ごせるよう物作り、食事やおやつ作り、行事など充実させるよう努めています。今年度はコロナ禍で外出ができない分、ホーム内での充実を頑張りました		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年八幡神社のお祭りや初詣、地域のお祭り、花見や紅葉狩りなど元気にお出かけしていましたが、コロナ禍で自粛しホール内で毎日リハビリ体操しています。コロナ終息後外出できるのを楽しみにしています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医が月2回往診に來られ、健康管理していただいています。本人、家族とも安心しておられます。又、他科受診時にはGHと主治医より紹介状にてスムーズに連携出来ています。	入居を機に、内科のかかりつけ医は協力医へ移行し、月2回の往診を受けている。入居前の医師や他科受診をする場合は、コロナ禍のため職員が受診の同行をしている。緊急時は、訪問看護師が協力医に連絡・相談し必要な医療が受けられるよう連携している。歯科は必要時に往診を受けることができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	2週に1回の訪問看護師來所時に、個々の状況を報告相談し、健康管理しています。利用者の思いを聴いたり、爪切り、耳のケアなどもされています。必要に応じ主治医、ご家族に連絡し早期対応に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は利用者の状況を看護添書にて情報提供を行い、入院中の様子を聞き、退院後安心してホームで生活できるよう連携をとっています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期については入所時に家族の意向を聞き、入所後は必要に応じて確認し、本人が一番安心、安全で穏やかに過ごせる所を相談し、支援しています。	入居時に意向を確認しており、重度化しグループホームでの生活が困難になった場合は、医師に相談すると共に、日頃の様子を家族に伝え、希望があれば同法人の特養などの施設を紹介している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年度はできませんでしたが、消防士に来ていただき緊急時対応、AED講習を受けています。スタッフ会議にて急変や事故発生時に備えての研修を行い、マニュアルをいつでも確認できる場所に置いています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定、日中想定で年に2回、消防設備の方の立会で火災想定避難訓練実施。年に1回地震想定避難訓練、停電、断水に備えて非常食作り(バッククッキング)、備蓄の見直し、仮設トイレや汚物処理の対応をどうするか話し合いをしました。同時にマニュアルの見直しをしました	年2回の火災避難訓練・年1回の災害時の訓練を利用者と一緒に行った。コロナ禍のため、地域住民の立会があり、反省会で意見を聞いている。Jアラートの放送時に合わせて地震想定避難訓練とライフラインが途絶えた時の食事作り(バッククッキング)を行った。非常時の排泄方法や備蓄(3日分)のチェックについて確認と見直しを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ユマニチュードを実践し、尊厳ある対応に努めています。入浴や排泄時の対応にプライバシーの保護、言葉掛けにも気を付けています	プライバシー保護や「ユマニチュード」の研修を受け、利用者を敬い、言葉掛けは優しく、本人の意向に沿った対応を行うよう心がけている。家族からの希望があり、親しみや反応のよさから、特別な呼び方や対応をする場合もある。特に排泄や入浴介助には羞恥心やプライバシーに配慮した対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的な会話を多くするよう心掛け、ご本人の思いを聞き出したり、寄り添い過ごす事で感じようになっています。利用者様が自己決定できるような声かけに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常のリズムの中で、利用者様一人ひとりのペースに合った生活をしていただけるように希望を聞きながら支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧、身だしなみ、おしゃれについての声かけをし、誉め言葉を添えるようにしています。ご家族と美容院に行かれたり(コロナ禍ではできていません)、2ヶ月ごとの出張理美容を皆さん楽しみにしています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材、季節の料理を楽しく食べていただけるように一言添えて家庭的な雰囲気です。コロナ禍で衛生上みんなで作ることはできませんが、ご自分で食べる分のぼた餅を作ったり、外食ができない分ホームでおうちレストラン(白いテーブルセンターで非日常的な雰囲気)。吊るし柿作り、玉ねぎの皮むきなどできることを一緒にしています	季節の食材を活かし、一汁三菜を心がけて、栄養バランスを考慮し手作りで提供している。利用者職員が協力して飾りつけを行ったりと、楽しい行事食となるよう工夫している。つるし柿、いちご大福などのおやつを皆で作ったり、玉葱むき、豆の筋取りなど食材の下ごしらえなど利用者は出来ることを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考え一汁三菜の食事を提供。季節の献立にしています。一人ひとりにあった食事形態、量を配慮しています。水分量にも気をつけ1000cc~1500cc摂取して頂けるよう提供しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後一人ひとりにあった口腔ケアが習慣になっています。できていないところは声かけ、仕上げ磨きの介助し、口腔内の清潔保持に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様一人ひとりの排泄パターンにあった声かけ誘導を行い、排尿排便状態を記録し、トイレでの排泄が継続できるよう自立支援を行っています。全員トイレ使用しています	排泄表に基づき、排泄パターンを把握し、声掛けやオリゴ糖・食物繊維・水分摂取にて排便調整を行っている。日中はほとんどの人がトイレを使用し、夜間は睡眠を優先したり、ポータブルトイレを使用するなど利用者に応じて対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝起床時に牛乳、10時のお茶にはオリゴ糖、食物繊維を使用し、1日1000～1500cc以上の水分摂取をしていただいています。できるだけ下剤を使用しないで排便を促し便秘を予防、体操と乳製品・野菜・肉・魚のバランスを考え提供しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お風呂が楽しみな方が多く、入るのが面倒と言われる方も入ると「気持ち良かった」と笑顔を見せて下さいます。できない所はさりげなく介助しています。お風呂で一緒に歌を歌うなど楽しい入浴を心掛けています。	利用者の希望により、1～2日毎に入浴支援をしている。入浴拒否があれば、声かけや介助のタイミングを図り気持ちよく入ることができるよう工夫している。季節の菖蒲湯や柚子湯、職員との楽しい会話、歌と一緒に歌う等、ゆっくり入りたい方、早く入りたい方等、利用者の好みに合わせて対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室で本を読まれる方、ホールでテレビを観られる方、利用者同士で会話される方々など、自由に過ごされています。就寝前は落ち着かれる様、個々にあった対応に努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局と連携し服薬管理しています。処方内容を薬品カードで確認し、服薬忘れの無いよう習慣化出来ています。状態の変化に応じ主治医へ報告、相談し対応しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できることが継続できるよう草取り・お盆拭き・洗濯干し・洗濯たたみ・チラシで箱折り・など、感謝の意を表し達成感ややりがいを持てるよう支援しています。昔話や歌、新聞、読書などで笑顔がみられます		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎年できていた外出がコロナ禍の自粛で今年度はできませんでした。	コロナ禍のため外出は自粛しているが、ホーム内ではできるだけ歩行の維持に努めている。屋外では安全を重視し手引き介助や車椅子介助で対応している。天気の良い日は庭の散歩や日光浴、草むしりなど行い戸外に出る支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者一人ひとりの認知症の症状と、理解度の状況に合った対応を心掛け、ご本人、ご家族の希望に添えるようにしています。トラブルにならないように配慮しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話の取り次ぎをしたり、かけて差し上げ、笑顔でお話しをされています。お孫さんからの手紙を楽しみにされており、返事が書けるよう支援しています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るいリビングで新聞や読書をしたり、ゆっくりテレビをみて過ごしておられます。テレビでYouTubeの昔の歌番組をロずさんで観ている方もおられます。季節の飾りを利用者と作ったり、壁の飾りや花を飾ることで季節感を出しています。	コロナ禍のため、毎日マスクを交換し、楽しくおしゃべりできるよう支援している。食事時はパーティションを使用し、感染防止に努めている。明るいリビングではソファでゆっくりテレビを見たり、庭にはベンチがあり、花壇の花、近所の畑や山を見ながら日光浴ができ、利用者は自由に過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂やホールでいつもの場所があり、利用者同士が和やかに会話などされています。時に居室で横になったり、読書される方もおられます。職員が絶えず気配りをして落ち着いて過ごせるように配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご本人、ご家族が持参された家具やお道具を置いています。ベッドや家具の配置も使いやすく安全に配慮しています。	自宅で使い慣れた家具や愛着のある品など、自由に持ちこむことができる。持参された道具などを使いやすく配置し、利用者の状態から安全を配慮し、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	台所・事務所・リビングから居室やトイレが見渡せ、わかりやすく位置しています。利用者様が自由に生活していただけるよう配慮しています。		

目標達成計画

作成日: 2022 年 6 月 23 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		コロナウイルス感染症が終息されない為、感染のリスクが常にある事を意識して予防に努める。絶対に持ち込まない。	感染予防対策がきちんとできる	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の予防・・・日頃の体調管理(毎日の検温)うが い、手洗い、マスクの着用、三密を避ける ・利用者の予防・・・日頃の体調管理(バイタルチェック)手洗い、マスクの着用、毎食後の口腔ケア ・環境整備・・・換気、取っ手・テーブル等の消毒 	10か月
2	23	コロナウイルス感染症予防の為、利用者様もストレスを感じておられる。日頃の生活を充実できるよう、より一層関わりを持つようにしたい	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で感染症予防対策をした上で、家族との 関わりを促進する。 ・コロナ対策をした上で外出行事を検討する ・屋外の環境を整備し、外気浴の機会を増やす 	<ul style="list-style-type: none"> ・ライン面会を促進、ご家族と顔をみての面会が出来るよう支援する ・庭にお花や野菜を植え外に出る機会を増やす ・日光浴をする ・コロナ対策をした上で外出行事を楽しんで頂く 	10か月
3	48	認知症が進み、できない事やわからない事が多くなると、自信を失い不安を抱え、自己肯定感がなくなってしまうことがある。自信を取り戻し意欲が出るようにする。	小さな達成感の積み重ねにより共同体の一員として大切な存在である事を認識できるよう支援する	<ul style="list-style-type: none"> ・縫い物、編み物、貼り絵などの物作りや、計算、塗り物、折り紙、硬筆練習などを勧め、できたことを褒めて達成感を味わい自信を持って頂く ・できた作品を利用者ごとのファイルにする ・自由帳を活用し出来ることをして頂く 	10か月
4	7	高齢者虐待防止の推進の義務化に伴い、運営基準に適用できるようすすめる 各ユニット毎に会議をもつだけでしたが、省令改正に基づき2ユニットで話し合うことにより、利用様が安心して暮らして頂けるようにしたい	<ul style="list-style-type: none"> ・3か月に1回高齢者虐待防止委員会を開催する ・職員に対し、虐待防止の為の研修を定期的実施する 	<ul style="list-style-type: none"> ・2ユニット合同の委員会にて、指針に沿って、利用者様の人権の擁護、虐待事例検討、間違ったケア事例検討等行い話し合った結果を全職員に周知徹底します ・年に2回、職員に対し、虐待防止の為の研修を行います 	12か月
5					10か月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。